

平成22年度 たっち 事業計画概要

前年の概況	本年重点ポイント	対利用者	職員・業務
<p>1. 平成17年3月オープン以来丸5年を経過し、府中市の子育て支援の中核施設として、府中市及び近隣市を中心に、多くの方々に利用されている。</p> <p>2. ひろば登録者は延べ3万8千を数える。現保有利用数は29,318名(2/28現在)。今年度2月末までの登録者数は市内1,840名、市外2,564名。今後も同様の傾向が継続していくものと思われる。</p> <p>3. リフレッシュ保育の月平均登録は34名(21年度30名)、利用者は136名(20年度128名)となっている。</p> <p>4. ファミリーサポートセンターは、依頼会員 858名、提供会員270名、両方会員85名(1月末現在)。</p> <p>5. 受付においては、ひろば登録はやや落ち着くも、未だ1日あたり14件、また保健室での身体測定は人気があり、1日あたり16件と利用が増えている。</p> <p>6. 相談事業においては、新規相談件数は12月末までで423件であった。市の相談員と協働しながら、幅広い相談内容に対応した。</p> <p>7. 各部署協働をテーマに事業を運営する。お互いの業務を知ることで連携は深まりつつある。今後も更なる相互理解を進めることが求められる。</p>	<p>重点ポイント</p> <p>1 子どもたちが、楽しくかつ安全・安心に利用できる場を、利用者に提供する。 ・ご来館いただいた方が、「また来たいかな場所」としての雰囲気作りを心がける。 ・不特定多数の子どもの集う場として、常に安全優先を心がける。</p> <p>2 府中市子育て支援施設の中核拠点として、子育て関連情報の把握、発信を行う。 ・関係機関と連携し、全ての子育て家庭を支援する。</p> <p>3 白鳥寮・子ども家庭支援センターらとりの連携・情報交換を行う。 ・府中市の子育て支援施設として、定期的に職員交流を行い、相互のサービス向上に努める。</p> <p>4 職員の一人ひとりのスキルアップを図るとともに、組織力の強化としてのチームワークの向上を目指す。 ・年齢、経験に関わり無く、互いの人間性を尊重し、支え合いのできる関係、職場環境づくり。 ・相談員・支援員・福祉ワーカーとしての経験、専門性を活かした、職場内メンタルケア体制の基盤構築。</p> <p>5 子育て支援に関する、新たな事業展開に向けて、具体的な支援案を検討する。</p>	<p style="text-align: center;">運営・管理</p> <p>1 子どもが集う場として常に「安全・安心」な環境を維持する-その上で利用者がまた来館したくなるように職員一同マナーや思いやりを心がける。</p> <p>2 毎月防災訓練を実施する。年2回、たっちの入っている「くるる」防災訓練においても積極的に役割を担い、自主訓練においては消防の指導訓練を毎月1回実施する。</p> <p>3 アンケートにより利用者のニーズを把握し、的確且つ迅速にサービスに反映する。更にサービス自主評価を実施し、自己点検を行い、改善に向けて検討する。</p> <p>4 全部署が、必要な情報の共有や状況把握のための連携、情報交換を随時、定例で行い、対応方法を周知徹底する。</p> <p>5 法人の理念に則り、地域の活性化に繋がる体験ボランティアの受け入れ、ボランティアの育成に積極的に取り組む。</p> <p>6 0歳児・1歳児を対象とした交流会を実施し、利用者同士の仲間作りを支援するとともに、保護者のリフレッシュを図る。また、利用者のニーズを把握し、地域の方々には喜ばれるような講座を実施する。</p>	<p>1 職員が、心身ともに健全に業務に従事できる環境作り、職位体制の維持</p> <p>2 業務内容の質の向上のためにスキルアップ研修プログラムを企画し実施する ・三施設連携による事業・サービス体験プログラムの企画、実施 ・専門性向上のための、年度における個人研修プログラムの計画、実行</p> <p>3 ボランティア対応強化に向けた専任職員のスキルアップ～ボランティア・コーディネーター養成(府中市、地域社会福祉協議会との積極的連携)</p> <p>4 講座・交流会は部署の枠を超え、職員の連携の下企画・運営する。</p>
課題	全体を通した考え方	<p style="text-align: center;">総合相談</p> <p style="text-align: center;">受付</p> <p>1 利用者に深い共感を持ち、いつでも気楽に施設利用し、問い合わせや相談ができる雰囲気づくりを行う。</p> <p>2 利用者が安心して地域で子育てができるように地域の資源や交流会・講座を案内する。</p> <p>3 たっちの他部署と連携し施設全体として一貫性のあるサービスの提供を行う。</p> <p>4 身体測定を通して、利用者の育児不安などの軽減を図る。</p> <p style="text-align: center;">相談</p> <p>1 虐待の予防と早期発見を行い、市の相談事業と連携・協働を行う。</p> <p>2 利用者やその家族の生活全般を総合的に支援する。</p> <p>3 利用者の悩みや困ったことに対して共感し、利用者の問題解決能力が発揮できるように支援を行う。</p> <p>4 しらとりと協働し、より充実した相談事業とサービスの提供を行う。</p>	<p>1 利用者ニーズに合った地域情報の収集・発信を行う。</p> <p>2 たっちの他部署の業務を熟知し、利用者に適切に案内を行い、部署間の連携が円滑に進むように配慮する。</p> <p>3 身体測定の際には、成長発達などに関する不安や悩みを傾聴し、利用者一人一人に必要な情報を提供する。</p>
<p>1. 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る利用者にとって、必要なサービス、必要な支援を提供する。</p> <p>2. 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る防災・防犯のために研修、施設整備を行い、利用者が安心して過ごすことのできる施設であり続ける。</p> <p>3. 職員の資質・専門性の向上を図るサービス評価の結果を踏まえ、会計の仕組みや事業を取り巻く制度・情勢の動向の理解を重点項目とする、チャレンジプランに取り組む。</p> <p>4. 「しらとり」との協働要保護世帯への対応、サービス事業のための連携強化、ボランティア育成、受け入れのための基盤整備を行う。</p> <p>5. 事業運営における市職員との協働体制の更なる充実</p> <p>6. 職員が心身ともに健全に勤務できる環境整備 ・「加湿」「換気」「空調」の安定による快適な環境づくり。 ・ファミリー・サポート・センター会員のための居場所づくり。</p> <p>7. ライフ・ワーク・バランスの推進前年度に引き続き、毎週1回「ノー残業デー」(府中市全庁水曜日)を設定し、超過勤務によるオーバーワークを抑制する。</p>	<p>法人の役割「私たちは家族を支援します」を念頭に子育て家庭の力の一助になり、地域の子どもたちが安心・安全に暮らせるよう支援する。</p> <p>そのために府中市協働のもと、しらとりをはじめとする市内関係機関と連携し、子育て支援の中核拠点として地域福祉の向上を目指す。</p> <p>また、推進にあたり法人の基本指針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者に深い共感をもつ 2 地域の方々に感謝する 3 水、電気などの資源を大切に 4 常に防災を心がけ火を出さない <p>の教訓を理解し、職員ひとりひとりがそれぞれの立場で読み替え行動指針としていく。</p> <p>22年度の具体的なアクションとしては前年度に引き続き、利用者へのサービスの質の向上職員の育成利用者のニーズを把握に努め、その内容をふまえ、計画を立て、実践していく。</p>	<p style="text-align: center;">家族支援</p> <p style="text-align: center;">ひろば</p> <p>1 利用者が安心して、安全に居心地よく過ごせる場を提供するため、館内の環境整備(人的・物的環境、安全確保、衛生管理)に努める。</p> <p>2 利用者が話しやすい雰囲気作りを行い、不安や悩みを受け止める場としての役割を果たす(不安の高い利用者に対しては、相談事業につなぐ役割を担う)。</p> <p>3 季節感や親子の触れあいを大切に考え、スポットや館内装飾を通して、季節が感じられるもの、親子で触れあう遊びや家庭での関係が広げられるものを提供する。</p> <p>4 利用者への情報提供や、感染症予防等に向けて、掲示板などを活用する。</p> <p>5 他の事業と連携し、子育て家庭を支援する。</p> <p style="text-align: center;">リフレッシュ保育</p> <p>1 子どもも保護者も安心して利用できる保育を目指す。</p> <p>2 保護者が、楽しみながらゆとりをもって子育てできるように支援する。</p> <p>3 保護者の気持ちに共感する姿勢を持ち、子どものありのままの姿を受け止める。</p> <p>4 子ども達の状況を把握することに努め、変化をふまえた個別的な働きかけを行う。</p> <p>5 他の事業と連携し、子育て家庭を支援する。</p> <p style="text-align: center;">ファミリーサポート</p> <p>1 会員数・活動状況の拡大、活性化に向けて、広報活動を積極的に行う。例: 通信の発行(年3回) / HP等によるPR / 市広報の活用 / ポスター掲示場所拡大</p> <p>2 利用を希望する家族が、速やかに登録・利用できるように従来の説明会に代わり随時個別登録に変更して対応する。</p> <p>3 提供会員が安心して援助できるように、入会時の講習会内容の充実を図ると共に登録後のステップアップ講座でフォローできる体制を組む。</p> <p>4 サブリーダーとの連携を強化し、会員の声を運営に活かすと共に、サブリーダーが企画する交流会を開催し、全会員の交流の場とする。</p> <p>5 会員のてびきを作成して全会員と関係機関に配布することで本事業への更なる理解を深めていただく。</p> <p>6 他の事業や関係機関と連携し、子育て家庭を支援する。</p>	<p>1 職員間のコミュニケーションを密にし、信頼関係を築くと共に、部署内の情報共有を円滑に行う。</p> <p>2 他部署への情報発信、情報共有を密に行い、部署間の連携が円滑に進むようにする。</p> <p>3 利用者のニーズを把握し、支援を向上させるためのスキルアップを図る。</p> <p>1 “報・連・相”を徹底して職員間の意思疎通を図る。</p> <p>2 多様な利用者への支援に必要な知識・技術の向上に努め、保育の質の向上を目指す。</p> <p>3 他部署との情報共有を密に行い、部署間の連携が円滑に進むようにする。</p> <p>1 会員に的確なアドバイスができるよう職員のスキルアップを図る(各種研修の参加)。</p> <p>2 変則勤務が多い中、職員間のコミュニケーションを丁寧に行う。</p> <p>3 他市区ファミサポの状況を把握し、今後の運営の参考にする。</p> <p>4 家族支援システムの本格稼働を軌道に乗せるため業務の整理を行いながら構築を進める。</p>